

日韓携帯メール言語に見える言語使用意識と戦略 —計量研究を中心に—

新井 保裕

要旨

日本と韓国で重要なコミュニケーション 도구로 사용되어지는 휴대폰 문자에서는, 규범에서 벗어난 표기가 많이 사용되고 있지만, 이에 대한 대조 연구는 거의 이루어지지 않고 있다. 본고에서는 그러한 휴대폰 문자 언어에 대한 일한대조연구를 고찰하고자 한다. 또한 선행연구에서와 달리 계량적 분석을 사용함으로써, 사용자의 언어 사용 의식 및 전략을 규명하고자 하였다. 분석 결과, 첫째, 일본에서는 일본어화자의 비주어 커뮤니케이션 지향성이 반영되어, 다양한 문자를 사용하는 경향이 있음이 나타났다. 둘째, 한국에서는 일본보다 탈규범적인 표기가 많이 사용되며, 본 조사의 대상인 대학생들 사이에서는 휴대폰 문자 언어 정착도가 높음을 시사되었다. 셋째, 남성은 여성에 비해 그러한 표기를 많이 사용하지 않는다는 경향이 일한 공통으로 나타나, 남성의 수용도가 낮다는 것을 알 수 있었다. 마지막으로, 그러한 남성도 수신자가 여성인 경우에는 표기의 사용 수를 증가시켜, 여성의 커뮤니케이션 사타일로의 시프트가 일어날 가능성이 있다.



キーワード：携帯メール言語, 言語行動, 計量研究, 言語使用意識, 言語使用戦略

1.はじめに

日本と韓国の言語行動を対照した研究は数多いが, そのほとんどが音声言語を対象としたものであり, 文字言語を分析したものは少ない. しかし近年は電子メディアで文字言語を利用する機会が目立っている. 特に携帯メールは日本と韓国では重要なコミュニケーションツールの1つであり, その利用頻度は携帯電話の本来の使用目的である通話よりも高い¹⁾.そして日韓両国で非常に多く使用される携帯メールでは規範から外れた表記が多く用いられ, そうした表記が近年注目されている. そこで本稿ではこうした携帯メールのテキスト上に現れる文字言語を「携帯メール言語」と称し, 脱規範的な表記の計量分析を行うことで使用者の言語使用意識と戦略を明らかにしていく²⁾.

2. 携帯メール言語の言語学的特徴

まず携帯メール言語の言語学的特徴について見ていく。携帯メール言語は書きことばでありながら話しことばの特徴が多く現れる「話しことば風書きことば」だと言われている。しかしこれは携帯メール言語の必要条件であっても十分条件ではない。確かに携帯メール言語には方言や役割語など多くの特徴的表現がある(田中 2005)が、携帯メールは話しことばの性質を備えていると同時に携帯メールが話しことばに影響を与えている側面もあり³⁾、それら特徴的表現が本当に携帯メールに特徴的なものであるかを判断するのは困難である。こうした中で携帯メールの最たる特徴として考えられるのは多彩な表記と言える。その一例として以下の文を示す。

(1) 残念ながらま〜ひ〜笑 カラオケとかテンションあがるうう⁴⁾

(2) 오늘 술 같이 마셔줘서 고마워'로♡

onul swul kathi masy-ecw-ese komaw-e'로♡

今日 酒 一緒に 飲む―補助動詞―理由 感謝する―終結語尾―'로♡

진짜 재밌었어ㄱㄱ

cincca caymi-ss-ess-e-khkh⁵⁾

マジ 面白い―過去―終結語尾―クク(笑い声)

今日酒一緒に飲んでくれてありがとう'로♡マジ面白かった クク

(1)では絵文字が言語外の要素を反映させている。また長音表記「〜」や「うう」に代表される脱規範的な平仮名の使用などを通じて実に多種多様な表記を見せている。このような表記を通時的な視点で見ても「規範からの逸脱」志向(三宅 2004a)が携帯メール言語の特徴として認められている⁶⁾。また(2)は韓国語の例であるが、日本と同様に絵文字・顔文字が言語外の要素を反映させ、笑い声を表す「ㄱㄱ khukhu」の母音が脱落し

「ㄱㄱ khkh」のように脱規範的な表記が行われている。日本も韓国も「規範から逸脱」した表記が携帯メール言語の特徴であると言え、こうした理由により本稿では携帯メール言語の表記に焦点を当てる⁷⁾。

3. 先行研究

日韓の携帯メール言語を対照言語学の観点から扱った先行研究としては須賀井(2008), 윤상한(2004)を挙げることができる。しかし須賀井(2008)は、その記述のほとんどが韓国のものを扱っており日本のものに対しては紹介程度に留まっている。さらに携帯メールだけではなくインターネットを媒介した言語全般を扱い、携帯メールやチャットなどの媒体については区別していない。しかし両者はともにインターネットを媒介しているものとは言え、その入力方式やデバイスが異なるために現れる言語の様相も異なる可能性がある。

対照的に윤상한(2004)は日韓で実際に用いられた携帯メールを資料として収集し言語学的に分析した上で「日本語と韓国語に類似した様相が現れる」と結論づけた。しかし윤상한の分類には表記だけでなく表現も含まれていることに注意しなければならない。携帯メールでは日韓問わず口語的表現が多く使用され、윤상한の結論はそうした表現の部分に多く焦点を当てた結果という非常に恣意的なものである。また須賀井(2008)も同様であるが、表記や表現などの形式にのみ注目しており、それらの形式が携帯メールの中でどの程度用いられているのかという計量研究は成されずにいる。

実際に用いられた携帯メール言語を計量分析したものは少ないが、三宅(2004b)、立川(2005)が挙げられる。三宅(2004b)は、携帯メールで文末に現れる「絵記号類」⁸⁾に注目し性差を考えている。その中で男性が女性に対して送るメールで、絵文字・顔文字など、情緒記号とされるものを大幅に増やすことを示し、男性が女性に対して、自らのコミュニケーション・スタイルを、女性のそれにシフトさせていると述べている。しかしあくまでも文末に現れる「絵記号類」のみに注目し、文中に現れるそれらについては言及していない。また別表からも明らかなように携帯メール言語に特徴的な、規範から外れた表記は決して「絵記号類」だけには限らない。そのために携帯メール言語の全体像を捉えきれていないと言える。さらに文末記号の内訳をパーセンテージで示し送受信者の性別ごとの違いを比較するに留まっており、高度の計量分析を行うに至っていない。

立川(2005)では10代・20代の若年層を対象に「親しい21歳(大学3年生)の女性」に送信すると仮定して携帯メールを作成してもらい、それらを収集して携帯メールに現れる各種絵記号数を、総文字数におけるそれらの割合とともに計量化している。その結果、女性送信者の方が男性送信者よりも各種絵記号の使用頻度が高いことを示した。しかし立川(2005)では受信相手を女性にのみ仮定しているため受信者の性差については考察されていない。また三宅(2004b)同様に対象は絵記号だけであり、さらに各種絵記号数と総文字数におけるそれらの割合の数値を単純に比較するだけに留まっている。

そこで本稿では、これら先行研究を踏まえて、これまでほとんど扱われてこなかった携帯メール言語の日韓対照研究を行う。その際に各種絵記号だけでなく携帯メール言語に現れる特徴的な表記全般を扱い、送受信者の性差に注目する。そして携帯メール言語の計量分析を行うことで、そこから見える言語使用意識と戦略を明らかにする。

4. 調査方法


本稿では実際に利用者が作成送信した携帯メールを分析するが、携帯メールというのは非常にプライベートな交信が成されるためにそのデータの収集というのは容易なことではない。そこで本研究では調査協力者にモデル文を提示して、それを協力者が携帯メールで実際に打つように書き換えてもらうという書き換えテストを行ってデータを収集した。

本調査は新井(2009a)で行ったものであり、日韓 40 名ずつ計 80 名の大学学部生に調査協力を依頼した。日本人は東京都内の大学に通う大学生、韓国人は韓国ソウル市内の大学に通う大学生が主な調査対象となっている。また調査協力者の性別は日韓ともに 1:1、男女 20 名ずつである。

上記の協力者に、謝罪・感謝・勧誘・依頼・報告という各種場面を想定したモデル文を提示し、恒常的にメールをしている同性・異性の友達に送ると仮定した上でどのように送るか、実際に表記・表現を変更して作成送信してもらった。モデル文は、日韓対照研究を行うのを念頭に置いた上で、日本語と韓国語で言語表現が 1:1 に対応しているものを選択した。三宅(2004b)は文末に絵記号類がよく現れると指摘していることから、文末の数も統一し単文と重文 1 つずつのセットを 1 つのモデル文セットとした⁹⁾。同性・異性の友達両方に送ることを仮定して携帯メールを作成してもらったのは、三宅(2004b)で指摘されるように携帯メールの絵記号の使われ方の性差は送信者だけでなく受信者のジェンダーにもよるためである。以上のような調査を行うことで協力者 1 人あたりから 10 通の携帯メールを送信してもらうことを依頼し、日韓の大学生 40 名ずつ計 80 名の携帯メール計 800 通を収集した¹⁰⁾。なお日韓それぞれの調査で提示したモデル文は次の通りである。

[日本での調査で提示したモデル文]

例：昨日は本当に疲れました。まだ眠いです。

→昨日はマデでつかれたっ！ まだ②眠い…zzz

- ① ごめんなさい。電車が来なくて 30 分くらい遅れそうです。〈謝罪〉¹¹⁾
- ② 今日は一緒に飲んでくれてありがとうございます。とても楽しかったです。〈感謝〉
- ③ 試験が終わりましたから暇ですか？カラオケに行きましょう。〈勧誘〉
- ④ 用事があって英語の授業に行けません。あとでノートを見せてください。〈依頼〉
- ⑤ 来週発表が 3 個もあります。忙しくて死にそうです。〈報告〉

[韓国での調査で提示したモデル文]

例：어제는 정말로 피곤했습니다. 아직 졸립니다.

→어젯진짜피곤ㅠㅠ아직졸린데...

- ① 미안합니다. 열차가 안와서 30 분쯤 늦을 것 같습니다. 〈謝罪〉
- ② 오늘은 같이 한잔해 줘서 감사합니다. 아주 즐거웠습니다. 〈感謝〉

- ③ 시험이 끝났으니까 심심합니까? 노래방에 갑시다. 〈勧誘〉
- ④ 일이 있어서 수업에 못 갑니다. 나중에 노트를 보여 주십시오. 〈依頼〉
- ⑤ 다음주에 발표가 3 개나 있습니다. 바빠 죽겠습니다. 〈報告〉

5. 分析の枠組み

本稿の目的は、携帯メール言語で用いられる特徴的な表記の数を計量化し分析することで、そこから見える言語使用意識と戦略を明らかにすることである。携帯メール言語を計量分析した先行研究としては、先に挙げた三宅(2004b)、立川(2005)がある。しかし三宅(2004b)では文末における様々な絵記号の使われ方のみに注目しており携帯メール全体について述べられているかどうか疑問が残る。携帯メール言語の表記には別表のように絵記号以外のものもあり、またそうした表記は絵記号を用いたものも含めて(3)のように決して文末だけでなく文頭・文中にも現れるためである。

- (3) ごめん🙇電車🚆が来なくて 30 分くらい遅れそう🙄

立川(2005)では絵記号の位置を問うてはいないが、対象は三宅(2004b)同様に絵記号という一部の携帯メール言語に限定されている。本稿では携帯メール言語の特徴的な表記をその種類・位置にかかわらず計量化し送受信者のジェンダーに注目して分析を行う。

なお三宅(2004b)では、1 文に 2 つ以上現れた絵記号類はそれが同じ場所に同種のものとして続けて現れた場合は 1 件と数えている。例えば次の(4)の場合は、「🙇」が 2 つ連続しているものの 1 件と数えられる。しかし(4)'と比較してみるとそのニュアンスは異なるように思われる。

- (4) ごめんね🙇、電車が来なくて 30 分くらい遅れそう () _ () 🙇🙇
 (4)' ごめんね🙇、電車が来なくて 30 分くらい遅れそう () _ () 🙇

対照的に立川(2005)では絵記号類の計量化について特に言及はされておらず、その実数を数えているものと思われる。しかし同じ場所に同種のものを連続して入力するのと、異なる場所に入力するのでは、入力した絵記号の実数は同じであってもその意味が同じとは考えづらい。絵記号類の計量化についてはまだまだ議論の余地があるが、本稿では三宅(2004b)の方法(以下、種類基準)と実数で測定する方法(以下、実数基準)の 2 つの尺度から考える。その件数は常に種類基準 ≤ 実数基準となる。

- (5) 今日🙇ありがとう🙇🙇

一方、絵記号以外の表記に関してはそうした表記がどれだけ適用されているかで考える。例えば先の(5)波線部の「わ」の場合、助詞「は」→発音表記「わ」→小文字表記「わ」というプロセスを経ている。つまりここでは「わ」は2件の携帯メール言語表記と数える。そのために(5)で紹介されている携帯メール文全体では先の表記と長音表記、そして絵文字1つを合わせて計4件となる。なお(5)では文末に現れる絵記号は1つだけであるため、種類基準、実数基準ともに等しい。

- (6) 좋아쓰!!! (←좋았으!!!)
coh-a・¹²⁾ssu!!! (←coh-ass-u!!!)
よいー過去ー終結語尾 !!!
よかった!!!

続いて韓国の携帯メール言語についても日本と同様の計量化を行う。(6)の例の場合、絵記号以外のものでは連続表記が1回行われているのでこれを1件と数える。絵記号を用いたものとしては感嘆符が連続して3個用いられている。しかし韓国語の場合は疑問符・感嘆符が規範的な表記として認められている点に注意しなければならない。このような連続的な疑問符・感嘆符の使用に関して、実数基準では最初の1個を除いた残りのものを非規範的な表記と数える。この場合は2個の非規範的な感嘆符使用が認められ、先の連続表記と合わせて実数基準では3件の携帯メール言語表記が用いられていると数えることにする。一方、種類基準では非規範的に2個の感嘆符が使用されているものの、同種のものが同じ位置に現れているため1件となる。そのため(6)の携帯メール全体では種類基準で2件の携帯メール言語表記が用いられていることになる。

以上の計量化を、日韓それぞれ400件の携帯メールに施し分析・考察を行う。

6. 結果と考察

計量化したデータを主に国、送受信者のジェンダーに注目して分析する。

6. 1 日韓の類型差に現れる言語使用意識

まず日韓の携帯メール言語表記の類型差異に注目して分析を行う。表記類型を別表の通り、絵記号を用いたものと絵記号以外のものに類型化する。本研究で収集した日韓の携帯メール800通の中で用いられた携帯メール言語の表記数を、国×表記類型別に表すと表1, 2のようになる。

日韓それぞれの合計値を比較すると、種類基準では日本が韓国に比べて1割程度多く携帯メール言語表記が用いられているが、実数基準ではほとんど同じ数値が現れた。なお携帯メールの総文字数も考慮した分析結果は次項を参照されたい。しかしその類型に

注目すると、日本では絵記号を用いたものが 90%を越えた(実数基準：92.2%，種類基準：91.7%)のに対して韓国では 60%程度(実数基準：61.1%，種類基準 62.7%)に留まり大きな違いが出た。これらの結果に対して有意差検定を行ったところ、実数基準、種類基準ともに 0.5%水準で有意差が認められた¹³⁾。

三宅(2005)は日本の携帯メールが日本語話者のヴィジュアル・コミュニケーションへの志向性を強く反映したものであると述べた¹⁴⁾。ヴィジュアル・コミュニケーションには日本語の多彩な文字体系と絵記号など視覚に訴える表記が大きな役割を果たすとされているが、日本の携帯メールの場合は韓国のそれと比較して特に絵記号が果たす役割が大きいことがわかる。従来の文字体系ではなく絵記号により大きな役割を担わせて使用している。日本の携帯メール言語には平仮名、片仮名、漢字、アルファベットの他に絵記号を利用するという多文字使用の傾向を見せることが明らかになり、三宅(2005)のいう日本語話者のヴィジュアル・コミュニケーション志向性が裏付けられた。

表 1 国×類型別携帯メール言語表記数(実数基準)¹⁵⁾

国	表記類型		合計
	絵記号	絵記号以外	
日本	1104 [92.2%]	93 [7.8%]	1197 [100.0%]
韓国	728 [61.1%]	463 [38.9%]	1191 [100.0%]
合計	1832 [76.7%]	556 [23.3%]	2388 [100.0%]

$$\chi^2(df=1, N=2388)=321.64 \varphi=.37 p<.005$$

表 2 国×類型別携帯メール言語表記数(種類基準)

国	表記類型		合計
	絵記号	絵記号以外	
日本	1017 [91.7%]	92 [8.3%]	1109 [100.0%]
韓国	596 [62.7%]	355[37.3%]	951 [100.0%]
合計	1613 [78.3%]	447 [21.7%]	2060 [100.0%]

$$\chi^2(df=1, N=2060)=252.29 \varphi=.35 p<.005$$

6. 2 国×送信者性に現れる言語使用意識

前項では日韓という二項対立でのみ考察したが、本項では送信者の性も分析の対象とする。ここでは国×送信者の性別に焦点を当て、調査協力者一人の同性・異性の友達に送信すると仮定して作成した携帯メール 10 通の中で用いた携帯メール言語の表記数の平均数を比較する。各カテゴリーの記述統計量は次の表 3・4 の通りである¹⁶⁾。

記述統計量を見ると実数基準、種類基準のどちらの基準であっても、韓国より日本の方が、ごくわずかではあるが平均値が高い。また送受信者の性別では、日韓ともに女性の方が男性よりも高い数値を示している。

ただし表記の件数を見るだけでは国×送信者性に現れる言語使用意識を見ることはできない。それは携帯メール言語の脱規範的な表記数は、それが用いられる携帯メールの総文字数に影響されると考えられるためである。総文字数の多い携帯メールであるほど、脱規範的な表記を用いる機会は増加すると言える。実際に本調査で収集した10通の携帯メールの総文字数の平均値を国×送信者性別に注目して見ると、韓国<日本、男性<女性という表記と同じ傾向を見せることがわかる¹⁷⁾。

表3 国×送信者性別表記数記述統計量(実数基準)

国	性別	平均値	標準偏差	N
日本	男性	24.1	13.9	20
	女性	35.8	12.8	20
	総和	29.9	14.5	40
韓国	男性	24.8	9.0	20
	女性	34.8	13.4	20
	総和	29.8	12.4	40
総和	男性	24.5	11.6	40
	女性	35.3	13.0	40
	総和	29.9	13.4	80

表4 国×送信者性別表記数記述統計量(種類基準)

国	性別	平均値	標準偏差	N
日本	男性	22.7	9.78	20
	女性	32.8	8.66	20
	総和	27.7	9.68	40
韓国	男性	20.3	5.78	20
	女性	27.3	12.32	20
	総和	23.8	10.08	40
総和	男性	21.5	8.75	40
	女性	30.0	11.11	40
	総和	25.8	10.47	80

そこでここでは表記数／総文字数という比率に注目して分析を行う。国と送信者性別を2要因とする二元配置分散分析で検討した結果は次の表5～8の通りである¹⁸⁾。分析の結果、国、送信者性別の両要因ともに5%水準で有意な主効果が見られ、日本<韓国、男性<女性であることがわかった。ただし交互作用については、有意差は現れなかった。

表5 国×送信者性別記述統計量(実数基準)

国	性別	平均値	標準偏差	N
日本	男性	.101	.047	20
	女性	.133	.038	20
	総和	.117	.045	40
韓国	男性	.154	.058	20
	女性	.181	.051	20
	総和	.168	.055	40
総和	男性	.127	.059	40
	女性	.157	.050	40
	総和	.142	.056	80

表6 国×送信者性別記述統計量(種類基準)

国	性別	平均値	標準偏差	N
日本	男性	.095	.043	20
	女性	.122	.029	20
	総和	.109	.039	40
韓国	男性	.126	.047	20
	女性	.142	.034	20
	総和	.134	.041	40
総和	男性	.111	.047	40
	女性	.133	.032	40
	総和	.122	.042	80

表7 国×送信者性別・二元配置分散分析表(実数基準)

変動因	平方和	自由度	平均平方	F	
国	.052	1	.052	21.596	p<.005
性別	.018	1	.018	7.469	p<.01
国×性別	.000	1	.000	.060	n.s.

誤差	.181	76	.002
全体	.251	79	

表 8 国×送信者性別・二元配置分散分析表(種類基準)

変動因	平方和	自由度	平均平方	F	
国	.013	1	.013	8.650	p<.005
性別	.010	1	.010	6.305	p<.05
国×性別	.001	1	.001	.409	n.s.
誤差	.115	76	.002		
全体	.138	79			

つまり脱規範的な表記の数だけならば韓国よりも日本の方がその数は多いが、携帯メールの文字数も考察の対象とすると表記の規範からの外れ具合は日本よりも韓国の方が大きい。前項で示した通り、日本の携帯メール言語の方が新しい字種である絵記号が多く用いられる。そのために日本の方が韓国よりも規範から逸脱しているように見えるが、実際にはその逆であることがわかる。本調査では恒常的にメールをしている同性・異性の友達に送ると仮定した上で作成送信してもらった携帯メールを分析の対象にしている。ある携帯メール言語表記が利用されるということは、それが持つコミュニケーション機能が対話者の間で共有されていることを前提とするので、ここで用いられている携帯メール言語表記は、そのコミュニケーション機能が共有されている、つまり、定着しているものであることになる。ゆえに日本よりも韓国の方が大学生間で携帯メール言語表記が定着し使用が促されているのではないかと推測される。

また日韓ともに女性が男性よりも多くの携帯メール言語表記を用いることも明らかになった。これは女性の中ではそうした表記が男性間よりも定着しているため問題なく使用できる一方で、男性の場合はまだ十分に受け入れられていない。男性は新しい言語形式の受け入れに積極的ではなく、携帯メール言語という新しい言語形式が定着しておらず、その使用には女性に比べると抵抗感が生じているのかもしれない。三宅(2004a)は日本を対象にして、「規範からの逸脱」表記には若い女性が中心的な役割を果たすことを述べているが、それは日韓に共通していることがわかる。

6. 3 送受信者の性差に見える言語使用戦略

最後に送信者だけではなく受信者のジェンダーも分析の対象とする。国×送受信者性別の携帯メール表記数(実数基準、種類基準)はそれぞれ次の図 1, 2 の通りである¹⁹⁾。図を見ると各範疇で右肩上がりであることから明らかであるように日韓ともに男性送信

者より女性送信者の方が携帯メール言語表記を数多く用いるだけでなく、受信相手が女性の方の方が男性の時よりも表記数を増やす傾向があることがわかる。これは実数基準でも種類基準でも同様である。前項で男性は、携帯メール言語表記を女性と比較して多く用いないことを指摘したが、相手が女性の場合にはそうした女性のコミュニケーション・スタイルに合わせているかのようである。三宅(2004b)では日本携帯メールの文末に現れる絵記号類の類型別割合に注目して、男性が女性に対しては絵文字、顔文字等の情緒記号とされるものを増やすことを指摘した。本稿では文末に現れる絵記号だけではなく携帯メール言語に特徴的な表記全般を対象にしたが、男性が女性に適応させてコミュニケーション・スタイルをシフトさせる傾向が日韓ともに現れている。

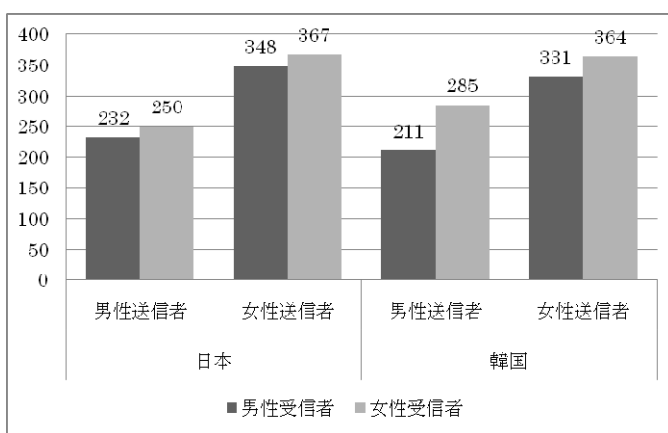


図1 国×送受信者性別携帯メール言語表記数(実数基準)

日本： $\chi^2(df=1, N=1197)=.033$ $\phi=-.005$ n.s.

韓国： $\chi^2(df=1, N=1191)=3.02$ $\phi=-.050$ n.s.

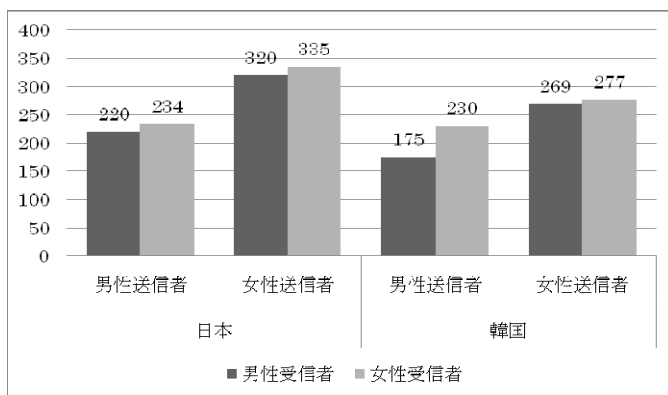


図2 国×送受信者性別携帯メール言語表記数(種類基準)

日本： $\chi^2(df=1, N=1109)=.017$ $\phi=-.004$ n.s.

韓国： $\chi^2(df=1, N=951)=3.43$ $\phi=-.060$ n.s.

7. おわりに

本稿では、日韓の大学生40名ずつ計80名に行った書き換えテストを通じて収集した、携帯メール800通を対象に、これまでほとんど成されてこなかった携帯メール言語の日韓対照研究を行った。そして携帯メール言語に特徴的な表記に焦点を当てて、従来の研究とは異なり、数の比較に留まらぬ高度の計量的分析を行った。その結果、下記の言語使用意識と戦略が明らかになった。

- ① 日本の携帯メール言語には日本語話者のヴィジュアル・コミュニケーション志向性が反映され、平仮名、片仮名、漢字、アルファベットだけでなく絵記号を多く利用するという多文字使用の傾向が見える。
- ② 脱規範的な表記数だけを見ると韓国よりも日本の方が多いが、携帯メールの総文字数を考慮すると日本よりも韓国の方が規範からの外れ具合が大きい。これは本調査の対象となっている大学生間での携帯メール言語表記の定着度は日本よりも韓国の方が高いためではないかと推測される。
- ③ 日韓ともに男性よりも女性の方が携帯メール言語表記を多く用いる。これは携帯メール言語が男性よりも女性の中で定着していることの現れであろう。対照的に男性は新しい言語形式の受け入れに積極的ではなく、携帯メール言語という新しい言語形式が定着しておらず、その使用には女性に比べると抵抗感が生じているのかもしれない。
- ④ ただし男性の場合も、受信者が女性の時は男性の時に比べて携帯メール言語表記の使用数を増加させており、女性のコミュニケーション・スタイルへのシフトが起こっている可能性がある。これは日韓に共通して現れる。

また本稿で計量分析を行うにあたり、実数基準と種類基準という2つの基準を用いたが、ほぼ同一の結果が現れたことや、場面別に見ると異なる結果が現れることもあること²⁰⁾も興味深い。携帯メール言語の計量化はまだまだ議論の余地が残された分野であるが、そうした議論の一助となると思われる。

ただし本研究では謝罪、感謝、勧誘、依頼、報告という5つの異なる場面で用いられた携帯メール言語表記数の合計値を分析するに留まっている。今後は場面という変数に着目し各場面における表記数の分布も分析の対象としたい。それにより、日韓の携帯メール言語使用に見られる意識と戦略の普遍性と多様性をよりはっきりと知ることができると考えられる。

註

- 1) 橋元(2006)によると、メールの利用頻度は日韓ともに「日に 2~3 通以上」が最も高い。また「日に 2~3 通以上」と回答した調査協力者の平均メール頻度は日韓それぞれ、5.5 通、9.4 通となっており通話よりも平均値が若干高い(日韓それぞれの平均通話頻度は 5.2 回、8.4 回)。

2)

	日本	韓国
サービス	E メール	SMS(Short Message Service)
入力可能文字数	無制限	全角 40 文字(半角 80 文字)
ファイル添付	可	不可

なお本稿の研究対象は日本と韓国の携帯メール言語であるが、注意しなければならないのが、日本と韓国では「携帯メール」が主に指すものが異なるという点である。それぞれの特徴は上記の表の通りである。しかしともに携帯電話というデバイスを通じ文字を入力し、他者と送受信のやり取りを行っていることから、両方で用いられる文字言語は共に「携帯メール言語」と言うことができる。

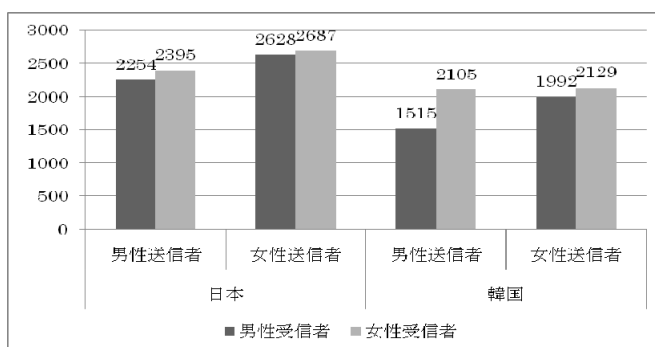
- 3) 松田(2006)では携帯メールではなく SNS を対象に、ネット社会の集団語を扱っている。そこに現れる助動詞の「ました(ました)」や「でつ(です)」は現在、インターネット上ではなく日常対話でも用いられるようになっている。また近年流行した「KY(空気読めない)」も携帯メール等のインターネットで生成された新表現であると考えられる。
- 4) 本稿で紹介する携帯メールは新井(2009a)で収集したものである。なお説明の簡略化のためメールの中から一部のみを抜粋したものもある。
- 5) 本稿では韓国語のアルファベット表記はイェール式に従う。
- 6) 三宅(2004a)では、ギャル文字に代表される携帯メールの表記が数 10 年間のスパンで漫画、親しい友人間の手紙、ポケベルなどの文化と繋がりをもって生まれてきたことを、具体例を交えて示している。詳細は三宅(2004a)を参照されたい。
- 7) 携帯メール言語の表記類型については Appendix にある別表を参照されたい。三宅(2005)の分類をもとに新井(2009a)で収集したデータを類型化したものである。それぞれの表記の特徴については新井(2009a)に詳しい。また携帯メール言語の特徴としては他に「句読法の省略」や「分かち書きの無視」(韓国のみ)も挙げられるが、それらは表記よりも表記法に当てはまるため本稿では考察の対象外とする。
- 8) 絵文字・顔文字・特殊記号を称して絵記号と呼ぶ。しかし三宅(2004b)や立川(2005)では(笑)のような漢字表記(カッコ文字)もその機能が類似していることから絵記号に含んでいるが、本稿の携帯メール言語の表記類型では本来の字種に注目して、漢字表記は絵記号には含まず絵記号

以外の表記に含んでいる。

- 9) ただし協力者は実際の友達に送ると仮定した上でメールの表現・表記を変更しているため、必ずしも文末数が維持されているわけではない。
- 10) 調査の詳細は新井(2009a)を参照のこと。
- 11) ◇ 内は想定した場面を表す。
- 12) 「・」は文字の境界を表す。
- 13) なお日韓ともに調査協力者は男女 20 名ずつの 40 名であり、またそれぞれの協力者に同性・異性の両方の受信者を仮定して携帯メールを作成してもらっているため、送受信者の男女比は等しい。ゆえに単純な総和を考えても送受信者の性差の影響は受けない。
- 14) ヴィジュアル・コミュニケーションとは視覚重視のコミュニケーションを指す。詳細は三宅(2005)を参照されたい。
- 15) []内は百分率を表す。これは次表でも同じである。
- 16) PASW Statistics 18 による分析結果である。以下の統計的分析結果は全て同様である。
- 17) 各カテゴリーの記述統計量は以下の通りである。

国	性別	平均値	標準偏差	N
日本	男性	232.5	43.3	20
	女性	265.8	38.0	20
	総和	249.1	43.6	40
韓国	男性	162.1	24.0	20
	女性	192.2	54.0	20
	総和	177.1	43.9	40
総和	男性	197.3	49.6	40
	女性	229.0	59.3	40
	総和	213.1	56.6	80

- 18) Kolomorogov-Smirnov の正規性検定の結果、どのカテゴリーにおいても 5%水準で正規性は棄却されなかった。
- 19) なお 6. 3 では表記比率ではなく再び表記数を分析の対象としている。総文字数を比較すると下図のように図 1, 2 と同じ傾向が現れるが、表記数の方が総文字数よりも若干顕著であるため、表記数の分析データを紹介した。日韓の男性送信者、女性送信者ともに、受信者が男性である時よりも女性である時の方が携帯メールの総文字数・表記数を増加させるが、総文字数と表記数の関係については今後の課題としていきたい。



20) 場面別に見ると異なる結果が現れることもある。感謝場面における表記数／総文字数という比率について、Mann-Whitney の U 検定(順位和検定)を行うと、実数基準では 0.5% 基準で日韓で有意差が見られるものの(平均値：日本.122, 韓国.166)，種類基準では見られない($p=.142$, 平均値：日本.120, 韓国.137)。それは下記のような繰り返し表記が韓国で多く見られるためだと思われる。計量化の基準については今後も課題としていきたい。

감사 ㅋㅋ

kamsa khkh

感謝 クク(笑い声)

参考文献

- 新井保裕(2009a).『携帯メール言語の日韓対照研究—文字研究の新たな一側面に焦点を当てて—』2008 年度東京大学修士学位論文.
- 新井保裕(2009b).「携帯メール言語に現れる言語行動—送受信者のジェンダーによる表記の用いられ方を対象として—」,『社会言語科学会第 24 回大会発表論文集』, 144-147.
- 新井保裕(2010).「韓国携帯メール言語に現れる言語形式と言語行動—日本との対照を視野に—」,『社会言語科学会第 25 回大会発表論文集』, 156-159.
- 須賀井義教(2008).「インターネットからの接近」,野間秀樹(編)『韓国語教育論講座 4』,くろしお出版, 215-244.
- 立川結花(2005).「若年層の携帯メールにおける各種絵記号の使用—メールのテキスト分析—」,『語文』 122, 108-123.
- 田中ゆかり(2005).「携帯メール・ハードユーザーの「特有表現」意識」,中村明・野村雅昭・佐久間まゆみ・小宮千鶴子(編)『表現と文体』,明治書院, 425-436.
- 橋元良明(2006).『調査からみたネット利用、対人関係、社会心理の日韓比較』平成 17 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(一般))研究成果報告書.
- 松田謙次郎(2006).「ネット社会と集団語」,『日本語学』 25(9), 25-35.

三宅和子(2004a). 「「規範からの逸脱」志向の系譜—携帯メールの表記をめぐって—」, 『文学論叢』 78, 162-178.

三宅和子(2004b). 「携帯メールにおけるジェンダー—文末における様々な記号の使われ方に注目して—」, 『社会言語科学会第 14 回大会発表論文集』, 176-179.

三宅和子(2005). 「携帯メールの話しことばと書きことば—電子メディア時代のヴィジュアル・コミュニケーション」, 三宅和子・岡本能里子・佐藤彰(編)『メディアとことば 2』, ひつじ書房, 234-261.












윤상환(2003). 「모바일 통신 언어에 관한 일고찰—한국어와 일본어에 나타난 양상을 통해—(モバイル通信言語に関する一考察—韓国語と日本語に現れる様相を通じて—)」, 『日本文化研究』 9, 117-133

付記

本稿は社会言語科学会第 24 回研究大会(2009 年 9 月, 京都大学)ならびに同学会第 25 回研究大会(2010 年 3 月, 慶應義塾大学)で行ったポスター発表をもとにしている. また本研究は科学研究費補助金(09J01992)の助成を受けたものである.

Appendix

別表：携帯メール言語の表記類型

	日本	韓国
絵記号を用いたもの		
絵文字	ごめん 	감사  (感謝 )
顔文字	あとでノート見せておくれ (^_^;)	수업못가  (授業行けない )
特殊記号	昨日はありがとう☆	노래방가자~  (カラオケ行こう~ )
疑問符・感嘆符	試験も終わったし暇?? 	노래방콜???? (カラオケ行く????)
長音表記	今日は飲みお疲れ様— 	고마웁~~ (ありがとん~~)
絵記号以外のもの		
平仮名表記	まち死ぬ…へるぷみ〜笑	—
片仮名表記	ゴメン!	—
漢字表記	忙しくて死にかねん (笑)	—
小文字表記	楽しかったあ 	—
誤表記	忙しくて <u>まち</u> 死 	노래방이나가자 (←노래방이나가자) nolaypang-ina-ka-cya (←nolaypang-ina-ka-ca)

		カラオケー特殊助詞ー行くー勧誘 カラオケでも行こう
音節末脱落・ 単純化表記	まち <u>おわた</u> ーw	재밌었음 (←재미있었음) caymis-es-um (←caymiiss-ess-um) おもしろいー過去ー名詞化語尾 おもしろかった
音素脱落表記	助けて <u>w w</u>	ㅏㅓ (←감사) k s (←kamsa) 感謝 感謝
発音表記	今日 <u>わ</u> ありがとうー [🐱]	섬꾼난나? (←시험 끝났나?) syem-kkunn-an-na? (←sihem-kkuthn-ass-na?) 試験ー終わるー過去ー疑問 試験終わった？
連綴表記	—	바빠죽게써 (←바빠죽겠어) papp-a-cwu-key-sse (←papp-a-cwu-keyss-e) 忙しいー連結語尾ー死ぬー婉曲ー終結語尾 忙しくて死にそう
非規範的 分綴表記	—	놀애방가자 (←노래방가자) nol・aypang-ka-ca (←no・laypang-ka-ca) カラオケー行くー勧誘 カラオケ行こう
名詞化表記	—	즐거웠음 culkewu-ess-um 楽しいー過去ー名詞化語尾 楽しかった
音節末子音 添加表記	—	넘바쁘닷 nem-pappu-ta-s すごくー忙しいー終結語尾ー強調 すごく忙しいっ